

公益財団法人かめのり財団
講演会・シンポジウム

2011年度は、王敏理事(法政大学教授)の講演会を次のとおり行いました。

開催団体(場所)	日時	対象	演題	
徳島県立名西高等学校	2011年 10月3日(月) 14:00～15:00	在学生、 教職員 約500名	<p>「異文化理解はなぜ必要か —日本の不思議を追っかけて 30年—」 王敏理事が来日してから日本の「もの・こと・ひと」について、中国との違いに不思議だと感じ調査した事柄を例に挙げながら、「好奇心を常に持って知りたいたいことを調べていくことが異文化理解には大切である」とメッセージが伝えられました。</p>	
長崎外国語大学	2012年 1月28日(土) 14:00～15:30	在学生、 教職員、 一般市民 約200名	<p>「21世紀、日中交流に於ける長崎の可能性」 長崎には、これまで中国をはじめ他国との交流を通じて取り入れた文化—宗教や食文化—が現在も生き続けており、長崎の特色としてそれらを見つめなおすことで地域の活性化にもつながり、さらには世界に発信可能な要素となり得るとの話がありました。</p>	
桜の聖母短期大学(福島県)	2012年 2月3日(金) 16:20～17:30	1年生 180名	<p>「グローバル社会における「異文化理解」について」 王敏理事が来日してから30年、中国との違いを発見し、興味を持って調査した事例を紹介しながら、身近なものに目を向け、好奇心を持ってさまざまな物事を調べていくことが異文化理解には大切であるとのメッセージが伝えられました。</p>	
桜の聖母短期大学生涯学習センター	2012年 2月4日(土) 13:30～15:00	一般市民 約50名	<p>「宮沢賢治と希望」 昨年(平成23年)の地震と原発事故でさまざまな不安を抱える福島市民に宮沢賢治の作品から「微笑み」をキーワードに希望となる言葉を贈りました。作品の中での「微笑み」の捉えられ方の話とともに、人間は自然界の一存在として自然と共に生きていくものという賢治の価値観が表れている作品を通じて、「震災で失ったものはわかり知れないが、素朴な原風景に戻った今、改めて足もとにある日本の風土から学ぶべきではないか」という賢治の声が聞こえてくるようだとの話がありました。</p>	